

令和7年度
「運営に関する計画」
(最終評価)

大阪市立西中島小学校

令和8年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- ・令和7年度の児童数が36名の小規模校である。全校児童が互いに知り合った関係であり、他学年の児童に対しても思いやりのある子ども達である。
- ・生活指導に関する部分では、安全な学校生活を過ごす上で長年課題となっていた廊下・階段を正しく右側歩行することについても、一人一人の子どもが意識するようになっている。互いに声をかけあって安全に過ごす態度も養われている。引き続き定期的な強調週間を設けながら安全に過ごせるように進めるとともに、自ら挨拶すること、時間を守って行動する力をはぐくめるようにしたい。
- ・家庭でのゲームやスマートフォン、SNSの活用時間が長くなったり、使用に伴うトラブルも起こったりしている。情報モラル教育や適切な使用ができるよう指導するとともに、家庭と連携した取り組みとして「おうち時間パワーアップ表」を活用し、日々の時間の使い方も改善できるようにしたい。
- ・令和元年度から3年度まで、国語科教育の研究実践「生きて働く言語活動～主体的・対話的で深い学び～」を主題に授業づくりを進め、子どもたちが考えをもち、交流することを通して多面的なものの見方ができ、深い学びを醸成することにつながった。また、国語科だけでなく、学習活動全体を通して考えをもち、意見交流する姿が見られるようになっている。
- ・令和5年度大阪市学力経年調査の結果をみると、国語科・算数科共に、標準化得点100以上となっている。
- ・令和4年度からは、算数科教育の研究に取り組んでいる。授業において積極的に取り組む児童が多いが、基礎的な計算処理をする力や自主的に問題に取り組むことに課題が見られている。また、重さや長さなど、生活のなかで実感したり、興味・関心をもって数量の関係に着目したりすることが難しいと考える。そのため、新たに「ぐんぐんタイム」を設けて継続的に基礎的な計算問題に取り組ませ、子ども達一人一人が計算を確実にできる力を養い、普段の算数学習でも積極的に問題に取り組めるような姿を目指す。また、朝学習や、午後の一人一台端末を活用した学習で基礎基本の定着を図るようにする。
- ・読書週間や図書館開放により、読書に親しむ児童が一定の読書時間を確保できているが、10分以下や全く読書時間のない児童もいる。令和3年度まで取り組んだ国語科研究に基づいた多読につながるような授業づくりや、毎週火・木・金曜日に読書タイムを設定する。また、図書館司書とも連携した図書室の環境づくりに取り組み、毎日10分以上読書に親しむ子どもをはぐくむ。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和4年度から令和7年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を毎年95%以上にする。(R7…100%)
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を80%以上にする。(R7…100%)
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を80%以上にする。(R7…100%)
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「1日における読書時間」の項目について、「10分以上」と答える児童の割合を50%以上にする。(R7…28.6%)
- 令和7年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を80%以上にする。(R7…92%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における知識に関する問題の正答数が全国平均の7割に満たない児童の割合を、10%以下にする。(R7…国語14.3%算数57%理科0%)
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における無回答率を10%以下にする。(R7…2.1%)
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「書くこと」「読むこと」に関する項目の平均正答率を全国平均の5%以内にする。(R7…13.5%)
- 令和7年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、全学年100以上にする。(3年…106.9 4年…98.8 5年…107.4 6年…103.7)
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して最も肯定的な「している」と答える児童の割合を35%以上にする。(R7…75%)
- 特に課題である50m走の記録を、令和7年度の全国体力、運動習慣調査において、令和3年度より0.5ポイント向上させる。(T得点…1.5ポイント向上)

【学びを支える教育環境の充実】

- ぐんぐんタイム(毎日5分間基礎・基本の学習時間)での学習者用端末を活用した学習を週2回以上実施する。(学習者用端末とプリント学習の併用も行う)(R7…100%)
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を80%以上にする。(R7…100%)

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。(R6…92% R7…88%)
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。(R6…0% R7…100%)
- ・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。(R6…87.5% R7…88%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。(4年 R6…102.5 R7…95.7 5年 R6…105.3 R7…106.2 6年 R6…100.5 R7…102.1)
- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合38%以上にする。(R6…62.8% R7…68%)
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を30%以上にする。(R6…79.8% R7…72%)

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の85%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を省く] (R6…89.5% R7…95.2%)
- ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を89%以上にする。(R6…89.5% R7…100%)
- ・小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。(R6…69.9% R7…80%)

3 本年度の自己評価結果の総括

年度目標は最終以下の結果となった。

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。(R6…92% →**R7…88%**)
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。(R6…0% →**R7…100%**)
- ・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。(R6…87.5% →**R7…88%**)

【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

・小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。

(4 年生 R6…102.5 →**R7…95.7** 5 年生 R6…105.3 →**R7…106.2**
6 年生 R6…100.5 →**R7…102.1**)

・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合 38%以上にする。(R6…62.8% **R7…68%**)

・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 85%以上にする。

(R6…79.8% →**R7…72%**)

【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】

・授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 85%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を省く]

(R6…89.5% →**R7…95.2%**)

・第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 89%以上にする。(R6…100% →**R7…100%**)

・小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。(R6…69.9% →**R7…80%**)

最重要目標 1 に関しては、目標達成に向けた取り組みを確実に行うことで、年度目標をどれも達成することができた。前年度不登校児童は関係機関とつながることで改善されたものの、今後とも関係機関と連携し、継続して支援ができるようにしていく。

最重要目標 2 に関しては、対話的な学びの項目で目標を達成した。表現する力の育成、対話的な学習を視点とした授業研究の成果と思われる。学力に関する項目も学年に差はあるが、概ね達成することができた。一方、健やかな体の育成は達成に届かなかった。体育の授業研究を通して、運動好きの子どもは増えてきたが、今後もさらに研究を進め、授業改善に取り組んでいく必要がある。

最重要目標 3 に関しては、ICT の推進、働き方改革を進められている結果が出た。今後も達成に向けて取り組みを進めていく。また今年度は課題であった読書に関しての項目で目標を達成することができた。図書委員会による図書館開放や読み聞かせ、本の紹介や読書目標の設定等、取り組みの継続と改善を重ねたことが結果として表れた。

(様式2)

大阪市立西中島小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。(R6…92% R7…88%) ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。(R6…0% R7…100%) ・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。(R6…87.5% R7…88%)	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】 ・全校集会や休み時間の遊びなど、異学年の交流に取り組み、学校生活の様々な場面で達成感を味わえる取り組みを行う。(安全教育の推進)	A
指標 全校集会や休み時間の遊びなど、異学年の交流を月1回以上取り組む。	
取組内容②【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】 ・スクリーニングの実施や児童一人一人に寄り添った不登校要因への対応及び学習機会の確保を進める。(不登校への対応)	A
指標 月1回、スクリーニング会議を実施し、児童についての情報共有の場を設ける。	
取組内容③【基本的な方向2、豊かな心の育成】 ・人権教育を推進し、自己肯定感を高める取り組みを行う。(道徳教育の推進)	A
指標 1学期はいじめについて、2学期は自尊感情について、3学期は人権について考える取り組みを行う。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
① NSTの取り組みや全校集会、休み時間に異学年で一緒に活動することが多く、交流を深めることができた。また授業についても、体育科・音楽科・家庭科・図工科・道徳科など隣接学年合同で学習する機会を設けることができた。給食時間も隣接学年で一緒に喫食することを通してふれあいの機会をもつことができ、自分の役割を果たしたり、互いに協力しあったりすることで、達成感を味わうことができた。校内児童アンケートにおいても、「学校に行くのが楽しい」と答える児童は中間94%・年度末92%と数値は下がったものの目標である80%を同年上回ることができた。
②毎月スクリーニング会議を実施し、それぞれの学年の様子や配慮を要する児童についての共通理解を図ることにより、児童理解が深まった。また、必要に応じて関係諸機関とも適切に連携することができた。また、課題のある児童は、担当者だけで抱え込まず、学校全体で対応し、共通認識の下で指導をすることができた。

③ 「いじめについて考える日」には、各学年の実態に応じた教材を用いて指導し、いじめについて考えることができた。人権週間には、隣接学年で「いいところ見つけ」を行い、それぞれの良いところを確認し、互いに自尊感情を高め合うことができた。盲導犬についての聞き取り、車いす体験を実施し、人権に対しての意識付けができた。また、隣接学年での道徳の学習を行ったことで、児童の考えの幅を広げることができた。

次年度へ向けての改善点

- ① 今後も交流できる場をさらに広げ、多様な意見があることに気付くことや、互いの良さを見付けられるようにする。そのために、縦割り班活動を活用した交流や、業間・放課後等における、特定の異学年の交流だけではなく、全体で取り組む遊びを行う。
- ② 今後も諸機関と連携しながら、組織で情報を共有し、児童一人一人に寄り添う雰囲気醸成する。
- ③ 強調週間だけでなく、普段の生活の中で、相手への感謝や頑張ったことを賞賛するなど、互いの良さや頑張りに目が向けられるような声掛けをしながら、自尊感情を高めるようにする。児童の考えの幅を広げていけるよう、隣接学年での道徳の学習を次年度も実施する。

大阪市立西中島小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。(4年 R6…102.5 R7…95.7 5年 R6…105.3 R7…106.2 6年 R6…100.5 R7…102.1) ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合38%以上にする。(R6…62.8% R7…68%) ・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を30%以上にする。(R6…79.8% R7…72%) 	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① ぐんぐんタイムや朝学習を利用して、個々に応じた基礎基本の定着を図る。</p> <p>指標 授業アンケートにおいて「ぐんぐんタイムや朝学習において、自分に応じた課題を選び、進んで学習ができた」の肯定的な回答を80%以上にする。</p>	A
<p>取組内容② 自分の考えを持ち表現する力を育むようにする。</p> <p>指標 授業アンケートにおいて、「みんなの前で自分の考えを発表することができていますか。」の肯定的な回答が80%以上となる。</p>	A
<p>取組内容③ 生活習慣を整え、いろいろな活動を通して、体を動かすことの喜びを知り、楽しく運動やスポーツに取り組む子どもを育てる。</p> <p>指標 ・週に1回の清潔調べを基に自分の生活習慣を振りかえり、基本的な生活習慣の意識の向上をはかる。 ・児童が休み時間に運動場で遊ぶことが可能な日数の中で、校内児童アンケートの「積極的に体を動かすことができた」と肯定的に回答する児童の割合を81%以上にする。</p>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 校内児童アンケートにおいて「ぐんぐんタイムや朝学習において、自分に応じた課題を選び、進んで学習ができた」の肯定的な回答が92%となり、年間を通して目標を上回った。継続して取り組むことで児童はプリントやデジタルドリルなどを活用し、自分で課題を選び、自分のペースで自主的に学習に取り組む習慣が身についた。</p> <p>② 校内児童アンケートにおいて、「みんなの前で自分の考えを発表することができていますか。」の肯定的な回答が90%となり、中間評価より1%下がったものの、目標は上回った。</p>	

場面に応じて挙手だけでなく、順に答えたり、自由に発言したりするなど発表の仕方や、意見の交流の仕方を工夫したことにより、児童は自分の考えを持ち発表する力が育まれた。

- ③ 清潔調べの計画的な実施により、基本的な生活習慣への意識付けはできた。より一層の意識の向上に向けては集計結果を基にした継続した個別への声掛け、家庭への啓発は必要である。校内児童アンケートの「積極的に体を動かすことができた」の肯定的な回答は 90%となり、目標を大きく上回った。体育科を研究教科としたことで、運動の特性にせまる指導を工夫した結果、体育の授業を「楽しい」と感じる児童が増え、休み時間にも体育の授業でしたことをやってみる児童が増えた。みんな遊びの声掛けや、NST、「今月のポーズ」など様々な取り組みにより体を動かす機会が増えた。

次年度へ向けての改善点

- ① 次年度も引き続き、自分に合った課題を選び、進んで学習ができるようにプリントや学習アプリ、学級図書などが活用できるような学習環境を整える。
- ② 自分の考えを持ち表現する力が育めるように、授業の組み立てや意見交流の形態を工夫していく。異学年や全校の前でも自分の考えを表現できるような場も設定していく。
- ③ 清潔調べや健康がんばり週間、長期休みの生活リズムチェックを計画的に実施していき、より一層の意識の向上と家庭への啓発を図る。体を動かすことの喜びを知り、楽しく運動やスポーツに取り組むことができるように体育科の研究や NST、みんな遊びなどの取り組みを充実させていく。

(様式2)

大阪市立西中島小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の85%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を省く] (R6…89.5% R7…100%) ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を89%以上にする。(R6…100% R7…100%) ・小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。(R6…69.9% R7…80%) 	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6、教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 ICT機器を使用して、説明力を高めるなど表現の幅を広げたり、端末を活用した学習に取り組んだりする。(ICTを活用した教育の推進)</p> <p>指標 ICT機器を活用して、説明や自分の考えを発信したり、他者の情報を受けて、意見交流をしたりする。クラスや委員会活動で、学期に1回ICT機器を活用した発表の機会を設ける。普段の学校生活において、心の天気を入力する習慣を身につけるなど、1日1回学習者用端末を使用する。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆとりの日を設定し、時間外勤務時間を減らす。 <p>指標 ・ゆとりの日を月に2回以上設定・実施し、教員の一人当たり平均時間外勤務時間の自校と大阪市平均より短縮させる。</p>	A
<p>取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校司書とも協力し、読書に対する興味関心を高め、読書好きな児童を増やす取り組みを行う。 <p>指標 ・学期に1回、図書に関する取り組みを行う。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>① 各学級や各委員会の発表で、スカイメニュー、CANVA、Googleスライドなど多種ソフトを活用し、学期に一回以上発表の機会を設け、表現の幅を広げることができた。ぐんぐんタイムや朝の学習、授業においては毎日デジタルドリルを活用することができた。</p> <p>② ゆとりの日を月に2回以上設定・実施し、教員の一人当たり平均時間外勤務時間の自校と大阪市平均より短縮させることができた。上限に関する基準1の達成率も100%と、目標通り長時間勤務を解消することができた。</p> <p>③ 校内児童アンケート『読書は好きですか』という設問に対し、肯定的に答える児童の割合は9月84%、1月80%と、下降が見られたが、目標数値の75%を同年上回ることはできた。学校司書との連携、図書委員会の取り組みが継続して行われてきたことが原因として</p>

あげられる。
次年度へ向けての改善点
① 次年度も継続して ICT 機器を活用する機会を多く取り入れる。また、引き続き、心の天気の入力を全児童が行えているかを教職員が把握していく。 ② ゆとりの日の月 2 回の設定と、教職員の時間の捻出のさらなる工夫を行っていく。 ③ 今後も学校司書との連携や、委員会の取り組みを継続して行う。読書好きな児童が増えるよう、さらに効果的な取り組みを考え、行っていく。